

平成29年度 いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第1日 9月16日(土)

茨城県教育委員会教育長講話



茨城県教育委員会教育長
小野寺 俊

【要旨】

- ・これからの教育は、グローバル化、人口減少、人工知能の発達等による社会の大きな変化を受け止め、創造性豊かで主体的に考え行動する人材、周りや組織の人間を引っ張っていける人材を育成することが求められている。
- ・新学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びについては、今後の時代に求められる人材を育てるための教育の原点として押さえるべき言葉である。
- ・理想の教師の資質は、専門力と人間力である。知識の伝達だけでなく、教師自身の人間力により、子どもに影響を与えられる教師になってほしい。

「歓迎のことば」



茨城県教育研修センター所長
安藤 昌俊

【要旨】

- ・教師は、成長する子どもたちから影響を受けて互いに成長できる職業であり、一生涯続く関係をつくる職業である。
- ・教師は、青年期までに様々な知識を伝えるとともに人間関係の大切さをしっかり伝えることで、未来の社会を支える人づくりをするという崇高な使命をもっている。
- ・教師としても、親としても成長できる素晴らしい環境が整っている茨城県で、輝く子どもたちと一緒に育てよう。

特別講演会

「子どもと向き合う大人として，教師として」



開善塾所長
藤崎 育子 氏

【要旨】

- ・不登校の子どもへの家庭訪問においては、子どもの好きな物を探して話をするようにしている。子どもの内面には触れず、物に焦点を当てて話をする、子どもとの関係を築きやすい。
- ・先生の一言により不登校の子どもも将来の夢や仕事などの方向性を見付けていく。先生の一言は、子どもの人生の羅針盤である。
- ・本日のペアワークでは、話せない子の気持ちや拒否される側の気持ちを味わう体験を行ったが、相手の気持ちになるという共感的理解を大事にしてほしい。

塾生のアンケートより

特別講演会「子どもと向き合う大人として，教師として」の感想

- ・不登校の子どもへの対応や注意すべき点について理解することができた。共感的理解の重要性と教員の言葉の大切さについて改めて考えることができた。【学生】
- ・子どもが行きたいと思える学校づくりには、教員の力量が重要となる。常に子どもの目線に立って、子どもの心情を共感的に理解してあげる教員を目指したい。【若手教員】
- ・藤崎氏の講話では、子どもの内面に触れるのではなく、その子どもの好きなものから触れていくという手法を知り、とても勉強になった。【学生】
- ・子どもとの関わり方について、多くのヒントを得られた。学校現場では、子どもたちに感情的になってしまったり、傷つけてしまったりして、自信を失いかけていたが、本日参加して、改めて頑張ろうと決心できた。【若手教員】

本日の感想

- ・グローバル化，人口減少による少子高齢化，人工知能の発達などに対応するための授業力を身に付けたい。子どもたちの思考力が高まるような授業をどのように展開するのかを知りたいと思った。【学生】
- ・教育長講話の中で、「教員の人間力や個性を子どもにぶつけて成長させていくのが教育」という言葉に感銘を受けた。【学生】
- ・教育長講話により，担当する子どもの伸ばしたい部分，自ら教員として鍛えたい部分について，方向性をつかむことができた。【若手教員】
- ・歓迎の言葉では，教員も子どもとともに成長するという話が印象に残っている。自分も子どもと一生つきあえる教員になりたいと思った。【若手教員】